

おいしい道めぐり

日高エリア 日高自動車道で歴史と絶景をめぐる

今年4月の日高自動車道・日高門別IC～日高厚賀IC開通で、道央圏からのアクセスがとても便利になった日高エリア。国内有数の馬産地であり、緑の牧場でサラブレッドが憩うのどかな風景が車窓に広がります。またアイヌ文化を守り継いできた地域だけに、アイヌ民族関連の施設も充実。より身近になった日高エリアの魅力をご紹介します。

優美なサラブレッドと出会う

日高エリアは全国の競走馬の約80%を生産する、まさに名馬の故郷です。夏は涼しく、冬は雪が少ない環境は馬の飼育に好条件で、江戸末期にはすでに馬産が行われていたそう。現在、新冠町のサラブレッド銀座(道道209号)や浦河町のサラブレッドロード(国道236号・道道348号)など、牧場が連なる道路は観光名所になっており、車窓からサラブレッドの美しい姿を見学することができます。

そして日高町には、ホッカイドウ競馬を開催する「門別競馬場」があり、地元で生まれ育ったサラブレッドが疾走するレースを観戦できるのも、馬産地ならではの楽しみ。競馬観戦のあとは、七輪代わりにバケツを使った競馬場名物「バケツジンギスカン」も、ぜひ味わってみましょう。



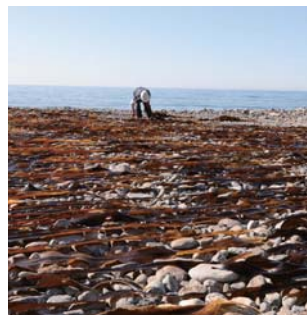
門別競馬場では、開催日の全日程でナイターレースを実施

昆布干し風景や桜並木も名物

日高エリアは、桜の名所が多いことでも知られています。約7kmにわたって桜が咲き誇る新ひだか町の「二十間道路桜並木」をはじめ、浦河町の「優駿さくらロード」や、えりも町の「庶野さくら公園」など春を彩る桜スポットが多数。開花時期には、例年多くの花見客でにぎわいます。

日高の名物といえば「昆布」も忘れてはいけません。夏か

ら秋にかけて海岸線で見られる昆布干し風景は、日高の風物詩。浜一面を、黒々とした昆布がびっしりと埋める様子は圧巻です。昆布漁の漁期は7～10月頃まで。もしその時期に海岸線をドライブするなら、窓を大きく開けて、浜風が運んでくる昆布のいい香りを楽しみましょう。



昆布を一枚一枚、丁寧に浜に並べて



サラブレッドの牧場など日高らしい風景がそこかしこに

守り継がれてきたアイヌ文化に触れる

豊かな自然の中で育まれてきたアイヌ文化が、日高エリアには色濃く残っています。なかでも沙流川流域の平取町には、アイヌ伝説が残る山や岩が数多くあり、その一部は国の重要文化的景観に選定されています。

そんなアイヌ文化により深く触れるなら「平取町立二風谷アイヌ文化博物館」へ。アイヌ文化を正しく受け継ぎ、未来へ伝承していくことをコンセプトに、民具や祭祀品、狩猟、葬送など貴重な資料が展示されています。



平取町立二風谷アイヌ文化博物館の見応えある展示

日高ルートマップ

